子育て家庭の孤立における都市自治体の 対応と展望

- 松戸市・善通寺市の事例から -

日本都市センター研究員 岸本 訓史

はじめに

子育て家庭の孤立への対応については、前章までで見てきたように、問題が大きくなる前からの予防的支援やつながりづくり、各家庭のニーズに寄り添った支援、多機関・多職種の連携による子育て家庭を支えるための地域づくりなどが求められる。

しかし、行政だけでこれらすべての支援を行うことは難しく、この課題を解決するためのひとつの可能性として、NPO等をはじめとした民間団体との連携した取組みが考えられる。

これらの点を踏まえ、本章¹では、松戸市役所、善通寺市役所及び、各市で子育て家庭の支援等を行う、まつどでつながるプロジェクト(松戸市)、NPO法人子育てネットくすくす(善通寺市)への調査をもとに、各市における子育て家庭の孤立への対応事例として、行政の子育て家庭への支援や行政と NPO 法人の連携事例、NPO 法人が行っている子育て家庭への支援や地域とのつながりづくりの事例などを紹介し、今後の取組みのあり方について検討を行う。

1 松戸市の概要について

千葉県松戸市は、県の北西部に位置し、面積は約61km、人口は約49万7千人(2021年12月現在)の一般市である。市の北側は流山市、東側は柏市、南側は鎌ケ谷市と市川市に接し、西側は江戸

¹ 本章の記述は、松戸市役所への書面調査、第3回研究会(2021年7月30日開催)でのまつどでつながるプロジェクト事務局の報告及び善通寺市役所子ども課、NPO法人子育てネットくすくすへのヒアリング調査等及び同市、団体のホームページ掲載資料等を基に筆者が解釈、構成、執筆したものであり、同市、団体の見解について報告するものではない。本報告に残り得る誤りについての一切の責任は筆者が負う。

川を境に東京都葛飾区と埼玉県三郷市に接している。

水戸街道の宿場町として、また、舟運交通の要衝として栄えてきた歴史があり、1960年頃までは農業を中心とするまちとして、その後は、首都東京の住宅需要の受け皿として、全国各地から人口が流入し、全国でも有数の生活都市として大きな発展をとげてきた。

その一方で、核家族化の進展や共働き家庭の増加による住民のつながりの希薄化により子育て家庭が孤立し、支援につながりづらい、問題を抱え込んでしまっているなどの現状も見られる²。



図 3-1 松戸市位置図

出典:松戸市資料をもとに筆者作成

2 松戸市の行政の取組みについて

近年、松戸市は子育て支援に力を入れており、2010年には、当

2 詳細は、まつどでつながるプロジェクト「まつどでつながるプロジェクトについて」https://m-tsunagaru.com/about/(最終閲覧日:2022年1月11日)を参照。

時から課題とされていた子育て家庭の孤立化や養育力の低下に対応するため、国の制度に先駆けて地域子育て支援拠点に子育てコーディネーターを配置するなど、保護者が身近な場所で子育ての相談ができる体制を整備している³。

現在は、「やさシティ、まつど。」をスローガンに、子育てしやすい街づくりを市の最重要施策のひとつに掲げ、幅広い子育て支援を実施している。こうした取組みにより、日経 xwoman が発表する「共働き子育てしやすい街ランキング 2021」において、総合編 1位を 2年連続受賞したほか、「第 2回日本子育て支援大賞 2021 (自治体・プロジェクト部門)」を受賞するなど、外部からも高い評価を受けている⁴。

子育て家庭の孤立への対応については、乳児家庭全戸訪問事業や養育支援訪問等を通じて、潜在的に問題を抱えた世帯の把握や支援に努めている。また、家庭以外での親子の居場所づくりとして、地域子育て支援拠点の設置や児童館・こども館の設置のほか、子育て支援を行う民間団体への支援や、民間団体と連携した取組みを行うことで、保護者や子どもが孤立しない環境づくりを充実させている。

そのほかにも、妊娠期から乳幼児期の情報提供として、母子健康 手帳アプリ「母子モ」や「まつど DE 子育て LINE」を使用した

³ 松戸市(2020)「第2期松戸市子ども総合計画」

^{4 「}共働き子育てしやすい街ランキング 2021」の詳細は、松戸市子育て情報サイト 「松戸の子育て支援は全国トップレベル~共働き子育てしやすい街ランキング 2021 総合編 1 位~」

https://www.city.matsudo.chiba.jp/kosodate/matsudodekosodate/kosodatenavi/matsudokosodateshien/kosodatejouhou/dual1.html(最終閲覧日:2022 年 1 月 11 日)

[「]第2回日本子育て支援大賞 2021 (自治体・プロジェクト部門」の詳細は、同「松戸市が「第2回日本子育て支援大賞 2021 (自治体・プロジェクト部門)」を受賞しました|

https://www.city.matsudo.chiba.jp/kosodate/matsudodekosodate/tokushu/nihonkosodatesien.html(最終閲覧日:2022 年 1 月 11 日)を参照。

プッシュ型通知の活用にくわえ、今後は、支援情報が網羅されたスマートフォン向けポータルサイトの構築なども検討されている。

昨今のコロナ禍においても、タブレット端末等を利用した孤立予防の取組みを行うなど、アプリや SNS、ICT 機器なども活用し、子育て家庭の孤立について重点的に対策に取り組んでいることも、松戸市の特徴と言えよう。

(1) おやこ DE 広場、子育て支援センターについて

松戸市では、子どもや子育て家庭が、身近な地域においてさまざまな人々に見守られながら健やかに成長できるよう、多種多様な交流・体験の機会を充実させるため、地域子育て支援拠点として、「おやこ DE 広場」、「子育て支援センター」を、現在、市内 27 ヵ所に設置している5。

おやこ DE 広場は、概ね3歳未満の児童及びその保護者等を対象に無料開放された屋内の遊び場、子育て支援センターは、保育園に併設されている就学前児童を対象とした無料の屋内の遊び場である。各拠点では、子育て家庭の交流や子育て相談の実施、子育て情報の提供にくわえ、地域の中高年層による読み聞かせボランティアや学生ボランティアの受入れ、中高生と乳幼児のふれあい体験など、地域住民と子育て家庭の交流を行うほか、多胎児や医療的ケア児をもつ家庭を対象とした交流会、父親主体のサークルとの協働による交流会の実施など、交流を持ちづらい家庭への機会支援なども行っている。

全拠点には、研修を受けた子育てコーディネーターが配置され、 拠点の運営を社会福祉法人や地域で活動する NPO 法人等に委託⁶ することで、行政の窓口に抵抗がある人にとっても、身近な場所で

^{5 2024} 年度末までに 29 ヵ所に増設予定。

^{6 27} ヵ所中 25 ヵ所が、社会福祉法人、NPO 法人、学校法人に委託されている。



図 3-2 子育で支援センター、おやこ DE 広場 MAP

出典:松戸市子育で情報サイト「まつど DE 子育で」

子育て相談や交流ができる体制となっている7。

また、各施設を運営する団体が事業の充実等を目的として組織している「松戸市おやこ DE 広場ネットワーク」や「松戸市子育で支

(※)曜日によって場所が違います

⁷ おやこ DE 広場については、委託先の選定にプロポーザル方式を採用し、地域住民との連携や信頼、継続性等を選考基準としている。

援センター連絡会」、「松戸市子育てコーディネーター協議会」への 参加やスキルアップのための研修会の開催等の支援を行い、受託先 の連携強化も進めている。

要保護・要支援家庭への対応においても、おやこDE広場との連携を行っている。おやこDE広場は、子どもを遊ばせたり、子育ての悩みを相談する場であり、虐待対応窓口ではないからこそ、市民が気軽に相談できるのではないかとの考えから、広場で虐待やリスクのある家庭を見つけ、要保護児童対策地域協議会で情報共有することで、未然防止や早期発見、早期介入につなげていくことも目的のひとつとしている。そのため、「松戸市子ども虐待対応の手引き」において、各機関の業務内容と要保護児童等の対応上の役割を明記するとともに、研修会等を通じて、地域子育て支援拠点の職員が要保護児童対策地域協議会の構成員として関係機関と情報共有ができるということを、周知するよう努めている。

(2) 民間団体との連携、活動支援等について

松戸市では、子育で支援を行政だけで行うことには限界があると 考え、民間団体との連携や民間団体同士の連携を促進する取組み (表 3-1 参照)のほか、民間団体の活動の周知、協働事業提案制度⁸、 市民活動助成制度⁹などによる活動支援を行っており、このような 取組みの積み重ねにより、民間団体による活動が活発になっている。

⁸ 市民活動団体や事業者から応募のあったモデル事業に対し、提案者と市が協働して事業を行う制度。提案者が自由にテーマを設定する「自由提案部門」と市がテーマを設定する「市の提案部門」がある。詳細は、松戸市「協働事業提案制度」https://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/shiminkatsudou/kyoudou_machidukuri/teianseido/index.html(最終閲覧日: 2022年1月11日)を参照。

⁹ 市民活動を促進するため、新たな市民活動の立ち上げや既存の活動を発展させるための事業に要する資金の一部に対し、一時的に助成金を支給する制度。詳細は、松戸市「市民活動助成制度」https://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/shiminkatsudou/kyoudou_machidukuri/jyosei/index.html(最終閲覧日:2022年1月11日)を参照。

表 3-1 子育で支援団体間の協働に向けた主な取組み

イベント名	目的	構成(主催)団体
松戸子育てフェスティバル	子育て支援を行っている 団体等の情報共有と協力 関係の構築を図り、子育 て中の市民を支援するた めのイベント。実行委員 会を設置して実施。	松戸市保育園協議会、松 戸市私立幼稚園連合会、 松戸市社会福祉協議会、 松戸市おやこDE広場 ネットワーク、千葉県助 産師会松戸地区、松戸市 子育で支援センター連絡 会、聖徳大学、シルバー 人材センター、松戸市子 育てコーディネーター協 議会、市関係各課など
こども祭り	ふれあいの場を提供し、 青少年の健全育成を目的	松戸市こども祭り実行委 員会(松戸市子ども会育 成会連絡協議会、松戸市 青少年相談員連絡協議 会、松戸市少年補導員連 絡協議会、市関係各課)
子育で支援に関する関係 機関との情報交換会		保育施設、幼稚園、地域 子育て支援拠点、民生委 員、社会福祉協議会、市 関係各課など

出典:松戸市への調査をもとに筆者作成

また、後述する「まつどでつながるプロジェクト」から提案のあった地域円卓会議への市職員の参加など、民間からの提案を積極的に取り入れている姿も見られる。

まつどでつながるプロジェクトとの連携については、地域円卓会

議への参加を通じた関係機関との情報共有等のほか、今後は、アウトリーチ型支援の充実に向けて、支援を行っている地域の子育て支援団体や関係団体との情報共有等を行う会議の開催や、地域で子育て家庭を見守るボランティアを養成する講座の開設なども予定している。

また、前述したように、民間に委託した地域子育て支援拠点とも 連携し、子育て家庭を支える環境づくりや要保護・要支援家庭への 対応も行っている。

(3) コロナ禍における子育て家庭の孤立予防の取組みについて

2020年の緊急事態宣言下において、保育所や幼稚園、小中高等学校の休園・休校は、つながりの喪失や見守り機能低下を生み、児童虐待や孤独・孤立等の問題に対する予防的支援の観点からも大変大きな課題であった。そのため、松戸市においては、子育て支援施設や保育所等へタブレット端末を導入し、全施設でオンライン相談や、電話・ビデオ通話での面談、オンライン保育の提供(ダンス、絵本の読み聞かせなど)、YouTubeを利用した遊びの発信などを実施し、新しい見守り支援とつながりの創出に重点的に取り組んできた。

今後は、更なるタブレット端末の設置や通信環境の整備に取り組み、配信環境の充実を図る予定である。

また、コロナ禍において支援を必要としている人へタイムリーに 情報が伝わらないといった課題が浮き彫りになってきたため、SNS の活用をさらに充実させるなどの取組みも今後進めていく予定であ る。

3 まつどでつながるプロジェクトの取組みについて

冒頭で述べたように、松戸市においても、核家族化の進展等によるつながりの希薄化に伴い、子育てをする保護者たちが、周りに頼れる人や相談できる人がいない、周りとコミュニケーションが取れず子育てに必要な情報を集めることができないなど、孤立し問題を抱え込んでいる現状があった。また、このような家庭は問題が顕在化していないため、リスクのある家庭と行政が認識することが難しく、支援の隙間に陥っている状況であった。このような家庭が見逃され問題が大きくなってしまう前に対応する必要があることから、「NPO 法人 MamaCan」、「NPO 法人まつど NPO 協議会」、「NPO 法人さんま」の3法人を中心に「まつどでつながるプロジェクト」(以下、「プロジェクト」と言う。)が結成され、取組みが行われている。

「NPO 法人 MamaCan」は、子育て情報の提供や母親のつながりづくり、就労支援・相談など、主に子育て中の母親への支援を行っている。プロジェクトでは、事業の運営全般を担うほか、法人の活動で得た子育て当事者意見のプロジェクトの取組みへの反映、関係企業との調整なども行っている。

「NPO 法人まつど NPO 協議会」は、NPO や市民活動のつながりづくりなど、市民による活動の中間支援等を行っている法人である。プロジェクトでは、全体の企画調整を担うほか、法人の活動内容を活かし、関係団体や行政等との連絡調整等を行っている。

「NPO 法人さんま」は、学童期・児童期等の子どもへの支援を主な活動としており、子ども食堂の運営や困窮世帯への個別支援等を行っている。また、松戸市からこども館の運営を受託していることもあり、プロジェクトでは、行政や福祉機関との連携、関係づくり等を担っている。

●本事業を推進する運営団体(コンソーシアム) 主幹事団体 [NPO法人MamaCan] 【特定非営利活動法人まつどNPO協議会】 【NPO法人さんま】 石川師枝(理事長) ・山田美和(理事長)…全体統括 阿部剛 (理事) 松戸市内の母親ネットワークを形成して ・松戸市内のNPO、市民活動団体のネット 子ども食堂の運営や困難世帯への個別支 ワーク組織として行政事業に従事している おり当事者に近い存在として支援している 援をはじめ、子ども館を運営している。 <本事業における役割: <本事業における役割> <本事業における役割> プロジェクト全体の企画、調整を担う市内ステークホルダーやオブザーバー プロジェクト全体の企画、調整を担う 各事業の運営全般を担う ・当事者のヒアリングやニーズの収集 ・行政や福祉専門機関との折衝、連携に ・協賛企業へのアプローチ、折衝 との折衝、関係づくり RD HA 向けた関係づくり BE 41 资金规注: 情報提供。 顕音分析に 事業実施に おける協力 資源の共有 おける知見 おける知見 助成金 【運営委員】 【円卓会議メンバー】 [基金] 【オブザーバー】 認定特定產業利活動法人 ・高橋亭…まつど子ども食堂の会 代表 まつど子育てささえあい基金 ・松戸市役所 (子ども部全課 こまちぶらす ・三浦輝江・・NPO法人子どもの環境を守る 会Iワールド 理事長 生活支援課、市民自治課、男 志村はるみ(公益財団法人 ちばのWA推拔づくり基金 女共同参画課。生涯学習推進 専務理事・事務局長) …本プロジェクトを持続的に 運営するために立ち上げた基 ・桑田久嗣…まつど子ども若者支援ネット ワーク代表 子育てや子どもの支援に関 · 小橋孝介…市立病院小児科副部長 わる団体 (NPO. 社会福祉 [調査研究] 金。寄付や嫁養金の受付先として従事。 · 宫間惠美子…社会福祉士、元松戸市地域 法人、企業、地縁組織、等) 共生課長 (早稲田大学 文学学術院 教授) ●外部連携パートナー ●まつどでつながるプロジェクト運営協議会

図 3-3 プロジェクトの運営団体について

出典:まつどでつながるプロジェクト事務局提供資料

以上のように、各法人がそれぞれの特徴を活かしながら関係機関やステークホルダー等と協働し、様々な取組みを行うことにより、松戸市の子育てネットワークを組織し、子どもや子育て家庭の孤立 予防を通して「誰もが共に寄り添い、自分らしく生きられる社会」の実現をめざしている。

(1) 地域円卓会議について

プロジェクトの主な取組みとして、まず「地域円卓会議」があげられる。これは、行政職員をはじめ、子育て支援に関する NPO や個人、教育機関や子ども食堂の関係者等が参加し、公民の垣根を越えて子育ての問題について話し合う場である。

行政が中心となって行う会議だけではなく、子育ての当事者を中心とした会議体が必要であるとの思いから、プロジェクトが松戸市へ提案し実現した。各回のテーマについて、参加者がそれぞれの立場から、課題に対して何ができるか、また、子育てを支え合う1人の人間として何ができるのか考えていくことで、様々なステーク

図 3-4 地域円卓会議の概要

①子ども・子育ての当事者を真ん中にした地域円卓会議

行政・福祉専門職・子育て支援NPO・子ども食堂など、子育てに関わる多くの機関や団体が集まり、子育で当事者が置き去りにされない議論、本質的な子育でしやすさを目指す組織間連携を生み出す。個人個人の相互理解を育むことを基盤に、それぞれが持っているビース(資源)を持ち寄り、支援とそれを必要としている人が適切につながる体制を生み出していく。



※過去の開催実績: 2017.3.10:参加者12名、2018.1.27:参加者50名、2019.1.18:参加者30名 2020.6.29:参加者33名、2020.11.11:参加者38名、2021年3.2:参加者41名、2021年7.5:参加者32名

出典:まつどでつながるプロジェクト事務局提供資料

ホルダーが、子育て支援における自身や互いの役割を理解していく ことができる。また、会議を通して情報を共有し顔の見える関係を 築くことで、会議後も連携がとりやすくなるメリットもある。

(2) 保護者への支援、情報提供について

結婚前や結婚直後の方を対象に「つながるファミリーカレッジ」として、子育で・結婚を考えていくためのワークショップを開催している。今日の日本では、結婚、出産をはじめお金や生活にまつわる教育を受ける機会がないまま大人になってしまう人も少なくない。そのような状況で、初めて結婚、妊娠、出産、子育でを経験し、戸惑いや想定とのミスマッチが生じ、それが子育での困難や、鬱、DV、虐待の原因のひとつとなっているのではないかとの考えから始まったのがこの取組みである。ワークショップでは、NPO法人の職員が同じ母親の立場から専門的知識も交え、結婚とはどういうことか、パートナーを持つとはどういうことか、そして子ども、子育でとはどういうものか、といったことについて参加者と共

に考え、子育てや結婚生活がしやすい世の中をつくっていくことを めざしている。

また、子育てに問題を抱えた際、行政や民間がそれぞれに情報発信を行っているため、相談先を見つけづらいとの課題があったことから、行政や民間の子育て支援情報を一元化(関連する情報へのリンクを集約)したウェブサイトを作成している¹⁰。これにより、子どもの年齢に応じた支援や、悩みの種類に応じた支援が、ひとつのサイトから検索できるようになっている。このほか、LINEを使用した相談窓口も開設しており、子育ての相談対応や、支援先の紹介なども行っている。これらは、プロジェクトの関係者が実際に子育てを経験したことから出てきた思いを、取組みとして実現したものである。

(3) 自立に向けた支援について

困難を抱えたひとり親世帯や生活困窮世帯などのために、関係機関と連携し食料品や生活用品の宅配を行いながら継続的なつながりづくりを行っている。また、各家庭の状況に合わせ、日用品等の支援だけでなく行政機関への申請書類の作成支援や移動支援なども行っている。

行政では行うことが難しい個人に合わせた支援を民間団体の協働 で進め、課題を抱えた家庭が将来的に自立できるよう最後まで寄り 添い、見守っていく取組みである。

(4) 子育て家庭と地域とのつながりづくりについて

子育て家庭と地域とのつながりづくりの一環として、子ども食堂 等を通じた出産祝い品(地元企業からのお祝い品や市内の子育て支

¹⁰ 詳細は、まつどでつながるプロジェクト「つながるリンク」https://m-tsunagaru.com/(最終閲覧日:2022年1月11日) を参照。

援情報)の配布を行っている。これは、横浜市戸塚区の「特定非営 利活動法人こまちぷらす」のウェルカムベビープロジェクトの地域 パートナーとして始まった取組みである。

この取組みにより、子育て家庭は出産直後の早い段階で市内の子育て支援情報を知ることができ、子ども食堂を通じて祝い品を配布することで、子育て家庭が地域とつながるきっかけのひとつとなる。

また、自らつながりをつくることが難しい家庭のため、キッチンカー「駄菓子屋カフェくるくる」を利用したアウトリーチ型の支援も行っている。支援施設等に自ら行くことが難しい家庭も、キッチンカーが近くに来ることで、キッチンカーのスタッフや買い物に来たほかの子育て家庭との交流をすることができ、つながりを持つ一歩を踏み出すきっかけとなる。コロナ禍で外に遊びに行くことが難しい子ども達にとっても、ほかの子どもと遊ぶことができる貴重な居場所となっている。

そのほかにも、新型コロナウイルス感染症の影響や緊急事態宣言

図 3-5 子ども食堂を通じた出産祝い品の配布

④赤ちゃんの誕生と共に地域で支える出産お祝いプレゼントの配布

子育ての早い段階で親子とのつながりを作るため、松戸市で赤ちゃんが生まれたご家庭に出産祝いをお贈りする事業です。 地元企業の方々にご協力によるお祝い品や松戸市内の子育て情報をまとめたファイルなどが入っています。







のまつどでつながるプロジェクト/2019

出典:まつどでつながるプロジェクト事務局提供資料

図3-6 キッチンカーによるアウトリーチ型支援

<u>⑦自らつながれない、つながろうとしない世帯への</u> 「移動販売車(キッチンカー)」によるアウトリーチ型支援活動

親子や子どもの遊びとくつろぎを乗せて、市内を回るキッチンカー「駄菓子屋カフェくるくる」です。市内のお寺の境内や協力いただける事業所の敷地で展開しています。





Dまつどでつながるプロジェクト/2019

出典:まつどでつながるプロジェクト事務局提供資料

等により、社会との接点がつくりづらくなっている子ども達のために、オンライン上で学習ができる「オンライン学童」の運営も行っている。子ども達とオンラインでつながり、オンライン上の居場所を提供することで、コロナ禍でも学習の機会や居場所が減ることがないようにという思いから始まった取組みである。

以上のように、様々な取組みを行うことで、それぞれの当事者に 合った支援やつながりをつくり、子育て家庭が悩みを相談したり、 支援を求めやすくなるような環境づくりを行っている。

(5) 今後の展望について

プロジェクトでは今後の展開として、行政と子育て支援に関する 民間団体が協働し、まち全体で子育て家庭を支えていくための体制 づくりをめざしている。

そのための一歩として、前述の地域円卓会議をさらに活用し、官 民それぞれが適切な情報共有のもと支援の全体像を把握し、補完、 連携のあり方を考え、支援の隙間をなくすことを考えていく場にす ることや、地域で子育て家庭を支えていく取組みのひとつとして、 子育て家庭に寄り添って支援する人を「応援サポーター」として増 やし、積極的に周囲とつながることが難しい子育て家庭について も、つながりが持ちやすくなるような環境づくりを行っていくこと を予定している。

これらとともに、地域を巻き込んで、まち全体で子育て家庭へのセーフティーネットを強化する取組みをさらに進めることで、子育て家庭が自ら支援を求めなくても、周囲が早い段階で課題を見つけ、支援につなげていくことができる社会が実現できるのではないかと考えている。

4 松戸市の取組みにおける小括

以上のように、松戸市においては、地域子育て支援拠点の設置や 全拠点への子育てコーディネーターの配置など、早くから子育て家 庭が身近な場所で相談できる体制の構築に取り組んでいる。また、 地域子育て支援拠点を社会福祉法人や地域で活動している NPO 法 人等に委託するなど、積極的に民間の力を子育て支援施策に取り込 んでいる。

また、協働事業提案制度や市民活動助成制度、民間活動のPR、 民間団体同士の交流促進を行うなど、市として積極的に民間の活動 を支援し、協働していく姿勢が見られた。

プロジェクトについては、行政だけに頼ることなく、NPO 法人 自らが積極的に関係機関や団体と連携し、行政の支援の隙間に陥っ ている家庭やグレーゾーンにある家庭に対し、様々な取組みを行い ながら、子ども・子育て家庭の孤立予防に取り組んでいる。

行政、民間双方の積極的な活動が、松戸市における子ども・子育 て家庭の孤立防止の取組みの充実につながっていると考えられる。

5 善通寺市の概要について

香川県善通寺市は、県の西北部に位置し、南を琴平町、まんのう町、北を丸亀市、多度津町、西を三豊市に隣接し、面積約40km。 人口約3万1千人(2021年12月現在)の一般市である。

古くは空海(弘法大師)の生誕地として信仰のまちとなり、明治時代に入ると、陸軍の軍都として市街地の整備が進んだ。現在も市の中心部には陸上自衛隊善通寺駐屯地があり、そのほかにも、「国立病院機構四国こどもとおとなの医療センター」や「農業・食品産業技術総合研究機構四国研究センター」、大学など多くの公共機関等が立地している。このため、子育て世帯の転出入が多く、地縁、血縁的なつながりが薄い転入者は、子育てや生活を行ううえで支援やサービスとつながりにくいという課題も見受けられる。

図 3-7 善通寺市位置図

出典:善诵寺市(2021)「第6次善诵寺市総合計画」

6 善通寺市の行政の取組みについて

善通寺市は、2006年に母子保健と児童福祉の業務を一貫して担う子ども課を設置し、2007年には、子育て支援の総合拠点となる「子ども・家庭支援センター」を開設した。2014年には、四国で唯一、厚生労働省の妊娠・出産包括支援モデル事業に取り組み、2015年には子育て世代包括支援センターを、2018年には子ども家庭総合支援拠点を子ども・家庭支援センター内に設置するなど、先進的な取組みにより、子育て家庭への切れ目ない支援を行っている。

(1) 子育て家庭への支援体制について

善通寺市において、子育て支援等に関する事業は、保健福祉部子ども課において行われている。子ども課は、母子保健と児童福祉の一体化、子どもに関わる行政窓口の一本化を目的として、2006年度の機構改革により設置された。現在、課長1名、事務職7名、専門職として保健師2名、助産師1名、管理栄養士1名、家庭児童相談員2名、女性相談員2名の計16名で運営されている。

また、子育で支援を総合的に行う拠点施設として、2007年に開設した子ども・家庭支援センターには、子ども課の事務室や児童センター、体育館があるほか、後述する「NPO法人子育でネットくすくす」が運営する地域子育で支援拠点や障害児通所支援事業、利用者支援事業の窓口などが設置されており、ここに来れば子育でに関する支援を一括して受けられるようになっている。また、施設内で市の職員とNPO法人の職員がともに行事等を行うことにより、お互いの業務内容や業務上の課題を認識することができ、物理的、心理的にもスムーズな連携や業務の補完等を行うことができる。利用者である子育で家庭にとっても、身近な場所で相談ができ、資源



図 3-8 子ども・家庭支援センターの施設内



出典: 善诵寺市提供資料

やサービスにもつながりやすくなるといった効果もある。

地域性として、「転勤族」が多い善通寺市においては、身近に親 戚や知り合いがおらず、地域との関係づくりも難しいなど、子育て 家庭が孤立しやすい環境にある。そのため、子育て家庭と保健、福 祉、教育、医療などに携わる機関や民間団体などが連携し、地域が 一体となる関係づくりが求められている。

行政の対応として、子ども課の保健師・助産師は、妊娠届出時、 出生届出時、転入時などに窓口で面談を行い、家庭状況の把握や悩み相談を行うなど、子育て家庭が孤立することのないよう取り組んでいる。また、その際、支援が必要な家庭に対してはすぐに支援計画を作成する、積極的に外部との関わりを持ちづらい家庭に対しては、電話での連絡や家庭訪問等を定期的に行い保護者との関係を築きながら、子どもの成長に合わせて子育て支援拠点や子育て支援イベントへの参加を促すなど、各家庭の状況に応じて柔軟に対応を行っている。

要保護・要支援家庭への対応に関しては、子ども課の家庭児童相談員が中心となり、家庭の状況や家族構成等の情報を把握し、保育園や幼稚園、学校といった子どもの所属先や子育て支援コーディネーターとの連絡調整を行う。所属先が無い場合は、子ども課の保健師等が定期的に家庭訪問を行うなど対応を行っている。支援プランの作成については、子育て世代包括支援センターが行うが、必要に応じて子ども家庭総合支援拠点でもプランを作成し、児童相談所とも情報共有を行うなどして対応している。

(2) 関係機関との連携について

善通寺市においては、子育て支援を積極的に行っている NPO 法人子育でネットくすくすや、総合周産期母子医療センターである四国こどもとおとなの医療センターが市域内にあるなど恵まれた資源を活かして、子ども・子育て支援法ができる以前より関係機関と連携した子育で家庭への支援に取り組んできた。

乳幼児期においては、助産師による全戸訪問や医療機関での定期 検診の情報を共有することで、子育て家庭の状況把握を行ってい る。また、市外より転入してきた家庭に関しては、母子保健事業や 児童手当等の行政手続の変更の機会に、子ども課において、地域子育て支援拠点や子育で支援コーディネーターの紹介、子育で支援情報を掲載した冊子の配布、悩み相談への対応を行うなど、顔の見える関係づくりを行い、困ったときにいつでも子ども課に相談しようと思ってもらえる関係づくりに努めている。

また、子育で支援に関する行事やイベント時には、行政の専門職、主任児童委員、地域子育で支援拠点のスタッフ、子育で支援コーディネーターなど、子育でに関する関係機関が公民の垣根を越えて協力し合い、顔の見える関係づくりを行っている。

要保護・要支援家庭への対応に関しては、継続して見守りが必要な家庭に対しては、市の保健師・助産師が家庭訪問を行い、子育て支援コーディネーターは、相談内容によって適切な相談先につなげるなど、公民それぞれが強みを活かしながら対応にあたっている。

このような支援を行うことができるのも、NPO 法人子育てネットくすくすが地域に根差した様々な活動を行い、地域住民や関係機関、子育て家庭とのつながりを積み重ねてきたからである。

子育て家庭にとって身近な敷居の低い場所として地域子育て支援 拠点が利用でき、子育て支援コーディネーターへ気軽に相談をした り、情報提供を受けられることで、虐待の予防にもつながっている と考えられる。

行政としても地域との連携を見据え、民間団体に委託できる事業 は委託し、協働して子育て支援に取り組んできた成果でもある。

7 NPO 法人子育てネットくすくすの取組みについて

(1) NPO 法人子育てネットくすくすの概要について

NPO 法人子育てネットくすくす(以下、「子育てネットくすくす」と言う。)は、現理事長の草薙氏が、地域の保護者たちととも

に立ち上げたものである。

草薙氏自身が結婚を機に関東から善通寺市へ移住し、地縁、血縁のない地で子育てを行う中で、社会からの孤立感や閉塞感を感じていた。その後、他の母親たちとの交流をきっかけに、この問題は自分だけの問題ではないと感じたことから、1994年に育児サークルを主宰し、2002年に善通寺市内に住む保護者たちと子育てネットくすくすを立ち上げ、現在に至っている。

くすくすという名前には、「くすのき」が善通寺市の象徴木(市の木)であることから、①親子がくすくすっと笑顔でいられるように、②子ども達が地域の中で様々な人に育まれ、くすのきのように伸びやかにたくましく成長するように、③くすのきのように地域に根差した活動ができるようにという願いがこめられている。

子育てネットくすくすは「障がいのある、なしにかかわらず子どもの幸福を第一に考え、そのためには親子を中心とした家族全体への支援が必要であるとの前提に立ち、住民同士の支え合いと学び合いに基づく地域子育て環境づくりをめざすとともに、お互いの顔が見える地域社会の再生を図っていく」という設立趣旨(ミッション)のもと、様々な活動を行っている。

(2) 子育て家庭に向けた取組みについて

子育てネットくすくすが運営している地域子育て支援拠点に、「子育て広場くすくす」と「子夢の家」がある¹¹。子育て広場くすくすは、2002年に自主事業として民家で活動を開始し、翌年に善通寺市より「つどいの広場事業」の委託を受けた。2007年には善通寺市子ども・家庭支援センターが開設されたため、拠点を民家からセンター内に移転し活動を行っている。子育て広場くすくすで

¹¹ 善通寺市の地域子育で支援拠点については、全5拠点のうち2拠点を子育てネットくすくすが運営している。

は、子育で中の親子が地域との交流ができるよう、工夫を凝らした 様々な企画が行われている。特に、次世代育成への支援にも力を注 いでおり、中学生と乳幼児をもつ親子が交流するふれあい体験活動 や、学生等のボランティアの受け入れなども意欲的に行われてい る。

また、子育で相談においては、言語聴覚士や助産師、弁護士など 専門家の相談を受けることができ、同じ施設内に市の子ども課があ ることにより、市の専門職とも連携して対応することができるとい う利点もある。

「子夢の家」は一軒家を賃借し、法人2ヵ所目の地域子育で支援拠点として2008年に開設された。温もりを感じる民家の良さを活かした家庭的なセカンドホームとして、子育て中の親子だけでなく、地域住民や、民生委員・児童委員、高齢者や学生など幅広い年代の人々が気軽に立ち寄ることのできる施設である。屋外には、広い庭も併設されており、子ども達が保護者以外の大人たちにも見守られ、花や果実を摘んだり、砂遊びや水遊びをしたりと、自然にふれあいながら、自分で考え主体的に遊び込むことができる環境が整えられている。また、高齢者施設との交流や近所の寺院への散歩を行うなど、子どものいる豊かな暮らしの時間や人とのつながりを感じながら、安心して過ごすことができる施設となっている。

2019年からは善通寺市子どもの居場所づくり事業として、「ほっこり食堂」(子ども食堂)を開始するなど、食を通じた学習支援や 多世代交流の拠点にもなっている。

また、コロナ禍においても子育て家庭が孤立しないよう、時間を 決めて屋外の庭を開放し、悩みを抱えた家庭への相談対応やひとり 親等の家庭へのフードパントリー活動を行うなど、子育て家庭の多 様なニーズに寄り添った支援にも力を注いでいる。

図 3-9 子育で広場くすくすの活動の様子

地域との結びつきを深め、次世代育成・循環型の地域づくり



高校生、中学生とのふれあいからのメッセージ



赤ちゃんとの接し方など教えていただきあり がとうございました。私は赤ちゃんをさわった り、遊んであげたりしてとち娘しかったし、可 愛いと思いました。やっぱり子どもを生むとい ろいろと大変だし、2人以上いると1人だけ見 ていることができないと言っているのを問い 心配になりました。でも、お母さんたちは、一 生懸命頑張っていて「すごい・」と思いました





赤ちゃんはとても可愛かったし、見ているだけで心が落ち着きました。胎児のいるお腹をさわってみると自分もこのなかにいたんだなぁと不思議に思いました



出典: NPO 法人子育てネットくすくす提供資料

図 3-10 子夢の家の活動の様子





周りの大人が子どもたちを見守りながら過ごせる場所 子どもが自分で考えて主体的に遊ぶことができる場所 安心してのびのび育児できる環境





出典:NPO法人子育てネットくすくす提供資料

(3) 地域共生社会に向けた取組みについて

子育てネットくすくすでは、障がいのある子どもとその保護者が、地域の中で孤立せず地域福祉サービスが利用できるよう、障害 児通所支援事業として「すまいる」、「すてっぷ」を運営している。

すまいるは、未就園児を対象とした児童発達支援事業と小学生を 対象とした放課後等デイサービス事業を実施しており、子どもへの 療育支援や集団生活への適応訓練などを行うほか、地域の高齢者施 設等への訪問など、地域との交流にも重点をおき、法人の理念でも ある、障がいのある、なしに関わらず子ども達の幸せを第一に考 え、親子を地域の人とのつながりを通して支えられるよう、様々な 活動を行っている。さらに、約10年前より看護師の配置や医療機 関との連携により、医療的ケア児を抱えた家庭を地域の中で支える ことが可能となっている。

すてっぷは、中学生・高校生を対象とし、家庭的な雰囲気の中で子ども達が楽しく過ごし、卒業後に向けてより多くの社会経験・生活経験を積むことや、余暇活動の充実をめざして活動を行っている。また、思春期ケアへの対応や、自主事業としてイブニングステイを行うなど、障がいのある子ども達が自立し、社会へ出ていくための準備ができるよう支援を行っている。

これらの他にも、障がいのある子育で中の保護者たちが集う場として「ふらっとふぁみりー」が開催されている。これは、障がいのある保護者同士が地域の中で集う場がなく孤立してしまい、子育でに関する情報が得難い状況であるとの当事者の声からスタートした活動である。障がいのある保護者同士が交流する場ができたことで、外に出る機会が増えたり、悩みを相談し合える仲間ができたほか、障がいをもつ学生にとっても、先輩たちへ恋愛や結婚、子育てなどの悩みを相談できる場になっており、内面的にお互いを支え合えるピアグループとして、意欲的に活動が行われている。

図 3-11 すてっぷの活動の様子









出典:NPO 法人子育てネットくすくす提供資料

(4) 利用者支援事業について

利用者支援事業(基本型)については、前身の子育で支援総合コーディネート事業時代から善通寺市より委託を受けて行われている。子育で支援コーディネーターが子育で家庭への情報提供、相談対応、訪問等にくわえ、市の母子保健事業に関わるなど、市の子ども課とも連携し対応にあたることで、それぞれの家庭に合わせた対応が可能となっている。また、地域子育で支援拠点事業との連携により、気になる子育で家庭への継続的な支援を行うことができ、見守りが必要な家庭については、LINE等を用いて、常に相談の連絡がとれる体制をつくるなど手厚い支援を行っている。

また、四国こどもとおとなの医療センター内の育児支援会(多職種連携による虐待ケース要支援会議)への参加や、市内の地域子育て支援拠点間の交流のためのネットワーク会議を行うなど、子育て

支援コーディネーターが積極的に善通寺市における子育て支援ネットワークの形成を行っている。

(5) キッズお仕事体験について

子どものキャリア教育とともに、地域ぐるみで子ども達を支えていくまちづくり活動を目的として、市内の小学校3~6年生を対象に、地域の商店・事業所等での職業体験活動を行っている。乳幼児期には行政の子育て支援やサービスなど手厚い支援があるが、子どもの成長とともに利用できる資源が少なくなり、地域とのつながりも希薄になってくる。そういった課題を地域の人たちと一緒に解決し、子ども達の成長を育むために地域が一体となって取り組む必要があるとの思いから始まった活動である。

子ども達は、お仕事体験活動が終わった後も体験先の商店等へ買い物に出かけるなど、地域と顔の見える関係性を築くことができ、

図 3-12 キッズお仕事体験の様子

商店等の協同で、子どものキャリア教育と体験活動



出典: NPO 法人子育てネットくすくす提供資料

困ったときには地域に SOS が出しやすい社会環境をつくることに つながっている。

(6) 関係機関との連携について

ここまで見てきたように、子育てネットくすくすは、様々な活動を通して、善通寺市の子育て家庭を支えるまちづくりと多職種連携によるネットワークづくりを行ってきた。また、市子ども課の母子保健事業と地域子育て支援拠点事業、利用者支援事業が連携し、効果的な支援を行うことで、虐待の予防的支援にもつながっていると考えられる。

連携のメリットについて市の保健師からは、以下のような評価がある。

- ①子育で支援コーディネーターに乳幼児健診や各種行事に参加してもらい、子育での先輩に身近な相談者として関わってもらうとともに、子育でについての支援が必要な方には、地域子育で支援拠点の利用等を通してつながりを持ち続けてもらえる。
- ②保健師の相談に行きづらい保護者に対して、まずは子育て支援 コーディネーターからアプローチし、地域子育て支援拠点などを紹 介してもらえる。
- ③保健師だけで多くの相談窓口、支援機関、インフォーマルな情報等を把握し、提供していくことは難しい。いざというときには、地域子育て支援拠点のスタッフや子育て支援コーディネーターに頼ることができる。
- ④地域子育で支援拠点を利用している子ども・保護者で、保健師 等の相談が必要な場合、即時に対応ができる。

また、ここで、多職種連携による事例をひとつ紹介したい。

その家庭は、ひとり親家庭で難病の赤ちゃんを抱えていた。 保健師と子育て支援コーディネーターが家庭訪問を行い、顔と 顔がつながることによって、親子は気軽に相談をしたり、地域 子育て支援拠点のひろばを利用するようになった。しかし、そ の後保育所に通うようになり、次第に接する機会が少なくなっ ていった。

それから、約11年たったある日、突然その母親が行政の窓口に訪れ「今、娘が小学校に通っているが、急遽、学校から遠足に行くために車椅子を用意して欲しいと言われた。どうすればよいかわからない。」との相談があったと、行政の担当者から子育て支援コーディネーターへ相談があった。

子育てネットくすくすでは、平成16年4月より障害児通所支援事業を実施していることから、障がいのある子をもつ保護者や障害児の親の会とのつながりもあり、ある保護者より、子どもが小さい時に使用していた幼児用の車椅子を提供してもらえることになった。しかし、その車椅子はメンテナンスが必要であったため、キッズお仕事体験に協力してくれていた自転車屋のオーナーに相談したところ、すぐにメンテナンスを行ってくれ、その子は無事車椅子で遠足に行くことができた。

その後、車椅子を提供してくれた保護者とこの親子は相談ができる関係性へと発展したほか、自転車屋のオーナーも引き続き車椅子のメンテナンスを引き受けてくれた。このように、地域の一体的な支援を受けられたことで、親子が地域の中で安心して暮らしていけるようになった。

その人の困り事を困り事のまま終わらせることなく、様々なネッ

図 3-13 当事者に合わせた支援の事例



出典: NPO 法人子育てネットくすくす提供資料

トワークや関係機関をうまくつないでいくことで解決することができる。顔と顔でつながることで、安心感を覚え、孤立することがなくなり、困ったときに SOS が出しやすくなる地域づくりを、民間と行政との協働によってつくってきた成果が表れた事例である。

このように、行政だけでは対応することが難しい案件であって も、日頃培った関係性を起点として各所と連携しながら、点や線で の支援ではなく面的支援を行うことで、当事者に合わせたオーダー メイドの支援が行われている。

(7) 今後の課題について

今後の課題としては、個人情報の取扱い、財政や人材に関するものなどがあるという。

まず、個人情報の課題として、香川県は比較的市域が狭いことも

あり、法人の運営する地域子育で支援拠点には、他市町からも利用者が訪れる。その際、気になる親子を見つけても他市町の職員から個人情報保護を理由に情報提供を断られたという事例があった。このように、特に市域を越えた場合の個人情報の取り扱い方や連携のあり方等について課題が見られる。

また、財政や人材面の課題として、当事者のニーズに合わせた支援や見守りが必要な家庭への24時間対応等については、ほとんど行政の支援がなく自主的に行われているため、職員への負担や賃金面での課題がある。また、社会の課題が多様になり、家族形態も変化している中で、職員が質の高い支援を続けていくためには、研修等への参加が不可欠であるが、日々の業務や予算の問題もあり参加が難しいなど、人材育成の面についても課題を抱えている。

(8) 今後の展望について

子育てネットくすくすでは、今後の目標として当事者の必要に応じたオーダーメイドの支援を行うことで、フォーマル・インフォーマルな資源を増やし、地域が一体となって子育て家庭を応援するまちづくりをめざしている。

また、これまでの支援から見えてきたこととして、夫婦の関係が子どもの成長に来たす影響が大きいことから、夫婦のパートナーシップ(子どもを迎える夫婦が、より良い関係をどのようにつくり、支え合っていくのか)についてお互いに学びあう機会の創出や、虐待をしてしまう保護者の悩みや不安、生きづらさを支えていく当事者研究のほか、教育と福祉の更なる融合などの必要性を感じており、このような予防的支援に関する取組みを進めていくため、行政との連携や制度への提言を行うなど、先進的な取組みの実践を進めている。

8 善通寺市の取組みにおける小括

以上のように、善通寺市においては、子どもの施策に関する組織体制の一本化とともに、市の職員と子育てネットくすくすの職員が、同じ施設内で勤務しているという物理的な近さを活かして日ごろから連携を行うことで、お互いの役割を理解し、補完し合えるというメリットも見られた。

また、子ども課の保健師・助産師が、妊娠届出時や出生届出時、 転入時などに面談を行い、家庭状況や悩みを把握し、課題を抱える 家庭に対してはこまめに家庭訪問等を行うなど、手厚い支援を行っ ている様子もうかがえた。

子育てネットくすくすにおいては、様々な活動を通して地域とのつながりづくりや関係機関との連携を行い、行政では手の届き難い課題に対しても柔軟に対応し、複合的な課題を抱えた家庭を孤立させることなく支援を届けていることがわかった。

今後も、行政と民間それぞれの特徴を活かした連携や、行政からの民間活動に対する更なる支援によって、この取組みが充実していくものと考える。

おわりに

本章では、松戸市と善通寺における行政と NPO 法人の活動事例 について、研究会での報告や議論、ヒアリング調査等をもとに紹介してきた。

両市において共通しているのは、子育て家庭への支援について、 行政だけで対応するのではなく、「民間と連携して取組みを進める ことが重要である」と考えていることである。子育て家庭の孤立へ の対応について、NPO等をはじめとした民間活動の有用性につい ては本書各章で述べられているとおりであり、松戸市においては、 プロジェクトから提案のあった地域円卓会議への市職員の参加をは じめ、子育て支援関係の会議やイベントを通じて民間団体との交流 や情報交換、民間団体同士の連携の促進などを積極的に行ってい る。また、協働事業提案制度や市民活動助成制度、民間活動のPR など、民間の活動を活性化させるための事業にも取り組んでいる。

善通寺市においては、子ども課と子育てネットくすくすが同じ施設内にあるという環境を活かして、普段から積極的に連携し子育て家庭への支援を行うほか、子育てネットくすくすが積み重ねてきた地域資源を活かして各機関が連携し、子育て家庭の課題に対応している姿も見られた。

また、両市とも、地域子育で支援拠点や利用者支援事業の運営を 地域で活動する NPO 法人等に委託することで、子育て家庭が身近 な場所で身近な人に悩みを相談できる体制を整備していることも特 徴と言える。

ただ、どちらの事例においても、NPOの善意での活動に依拠している部分もあり、金銭面や職員への負担の面で課題を抱えていた。また、行政職員の制度への認識不足や民間活動への理解不足も課題としてあげられたため、行政としてもこれらの課題を認識し、このような活動が今後も持続可能な形で継続していくための支援のあり方について、考えていく必要があるのではないだろうか。

両市ともに現在のような体制の充実は、長い年月をかけ少しずつ 形作られてきたものである。今すぐに実現することは難しいかもし れないが、行政が地域内で活躍している民間の活動を見つけ、地道 につながりづくりや支援を行っていくことで、今後の子育て家庭を 支えるためのネットワークが形作られていくのではないだろうか。

今回紹介した事例が、同様の取組みを考えている自治体にとって 少しでも参考になれば幸いである。

引用・参考文献

[松戸市関係]

松戸市(2020)「第2期松戸市子ども総合計画」

松戸市「協働事業提案制度」

https://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/shiminkatsudou/kyoudou_machidukuri/teianseido/index.html(最終閱覧日:2022年1月11日)

松戸市「市民活動助成制度|

https://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/shiminkatsudou/kyoudou_machidukuri/jyosei/index.html (最終閲覧日:2022年1月11日)

松戸市子育て情報サイト

https://www.city.matsudo.chiba.jp/kosodate/matsudodekosodate/index.html(最終閲覧日:2022年1月11日)

- 松戸市子育で情報サイト「松戸の子育で支援は全国トップレベル〜 共働き子育でしやすい街ランキング 2021 総合編 1 位〜」 https://www.city.matsudo.chiba.jp/kosodate/ matsudokosodateshien/kosodatejouhou/dual1.html (最終 閲覧日: 2022 年 1 月 11 日)
- 松戸市子育て情報サイト「松戸市が「第2回日本子育て支援大賞 2021 (自治体・プロジェクト部門)」を受賞しました」 https://www.city.matsudo.chiba.jp/kosodate/ matsudodekosodate/tokushu/nihonkosodatesien.html (最 終閲覧日: 2022 年 1 月 11 日)
- まつどでつながるプロジェクト

https://m-tsunagaru.com/about/(最終閲覧日:2022年1

月11日)

まつどでつながるプロジェクト「まつどでつながるプロジェクトについて」https://m-tsunagaru.com/about/(最終閲覧日: 2022年1月11日)

まつどでつながるプロジェクト「つながるリンク」

https://m-tsunagaru.com/(最終閲覧日:2022年1月11日)

〔善通寺市関係〕

善通寺市(2020)「第2期善通寺市子ども・子育て支援事業計画」 善通寺市(2021)「第6次善通寺市総合計画」

NPO 法人子育てネットくすくす

http://www.k-kusu.com/index.html(最終閲覧日:2022 年 1月11日)

善通寺市子ども課

https://www.city.zentsuji.kagawa.jp/site/kosodatehotcom/ (最終閲覧日:2022年1月11日)